

紫波まちぴか 2004

SHIWA TOWN SINCE 1955
環境と福祉のまちづくり情報誌

3月号

【No.643】



特集

国際交流協会をはじめとした活動 世界へ広がれ 交流の輪



お知らせします 介護保険決算
教育振興だより
エコ・ショップしわ
紫波まちピカ応援プログラム

紫波町の情報はホームページにも掲載しています。アドレスは www.town.shiwa.iwate.jp/



町の新名物づくりに参加しませんか

特産品

弁当試食モニター募集

町の安心な食材をふんだんに使った、おいしくて体にやさしい「紫波町特産品弁当」を開発中です。安全な食に関心があり、この弁当開発に協力していただける試食モニターを募集しています。

応募資格 町内在住の二十歳以上の
人

募集人員 若干名

問合せ・応募 商工観光室

☎ 672-6872

内容 三月、四月に二回予定している試食を兼ねた会議に参加して性別をお知らせください。

第三十三回紫波夏まつり ボランティアスタッフ募集

昨年の第三十二回紫波夏まつりは、町民を中心としたボランティアスタッフによる運営で、今までにな

いすばらしい内容のまつりを開催することができました。そして町民を中心とした夏まつり第二弾、

「第三十三回紫波夏まつり」が動き

始めます。夏まつり実行委員会では楽しいまつりをつくりたいというボランティアスタッフを募集し

ています。

夏まつりボランティアスタッフとしての要件は次のとおりです。

「楽しい・楽しかったまつり」をつくりたいという

心意気がある人

問合せ・申込 紫波夏まつり実行

委員会事務局（商工観光室内）

☎ 672-6872

目次

特集 国際交流

世界へ広がれ

交流の輪 3

介護保険事業会計 ... 8

教育振興だより ... 10

エコ・ショップしわ
紫波まちピカ応援プログラム... 14

まちの話題 16

情報掲示板 18

日本の酒造りを支える南部杜氏の技 親しまれ、
飲み続けられる酒へのこだわり ... 19

フォト・歳時記 ... 20

町内中高生の作品 ... 20

町長メッセージ 平成十六年度を迎えるに当たって

新年度を迎えるに当たり、所感を申し述べさせていただきます。

新年度予算は国の地方交付税、臨時財政対策債、国、県の補助金、負担金の削減などがあり、一般会計は一〇億六二〇〇万円で、前年比五パーセント減となりました。

歳出は、希望と活力の持てる施策ができるような事業を組みました。

今年度から長年の懸案事項でありました日詰駅前区画整理事業の工事が始まります。日詰商店街「くらしの道構想」「水辺プラザ構想」も始まります。

えこ3センターも本格稼働し、安全安心な農産物生産で、学校給食をはじめとした安心の食を提供できる農産物のブランド化を図ります。また、景観作物として花栽培を減反に組み入れ「彩の郷」づくりを進めます。上平沢、宮手、南伝法寺地区八百八戸の農業集落排水事業が着工し、完成の暁には普及率が大幅にアッ

プします。

本町は「元気はつらつ紫波計画」の実践で健康な高齢者が増加しております。さらに各種健康づくり事業への参加をお願いいたします。また、肝炎キャリアが多いといわれておりますが、医療費補助制度を創設しましたので、根気強く治療に励んでいただきたいと思います。

当町は、循環型まちづくり構築に向けて環境課題に取り組んでおります。今年度は構造改革特区に挑戦し、循環型まちづくり特区の取得を目指して、規制緩和による民間活力を生かした地域の活性化に向け頑張つてまいります。

今、行財政が未曾有の危機にひんしており、今年は長期的財政計画の立案が必要であることから、皆様のご意見をいただきながら進めてまいりたいと思っております。新年度もよろしくご指導の程お願い申し上げます。

（藤原 孝）

オーストラリアでの
中学生の交流



世界へ広がれ

交流の輪



紫波町国際交流協会は、町民の国際相互理解と友好親善の促進を図り、国際化に対応した、魅力あるまちづくりを目的に平成12年11月22日発足しました。

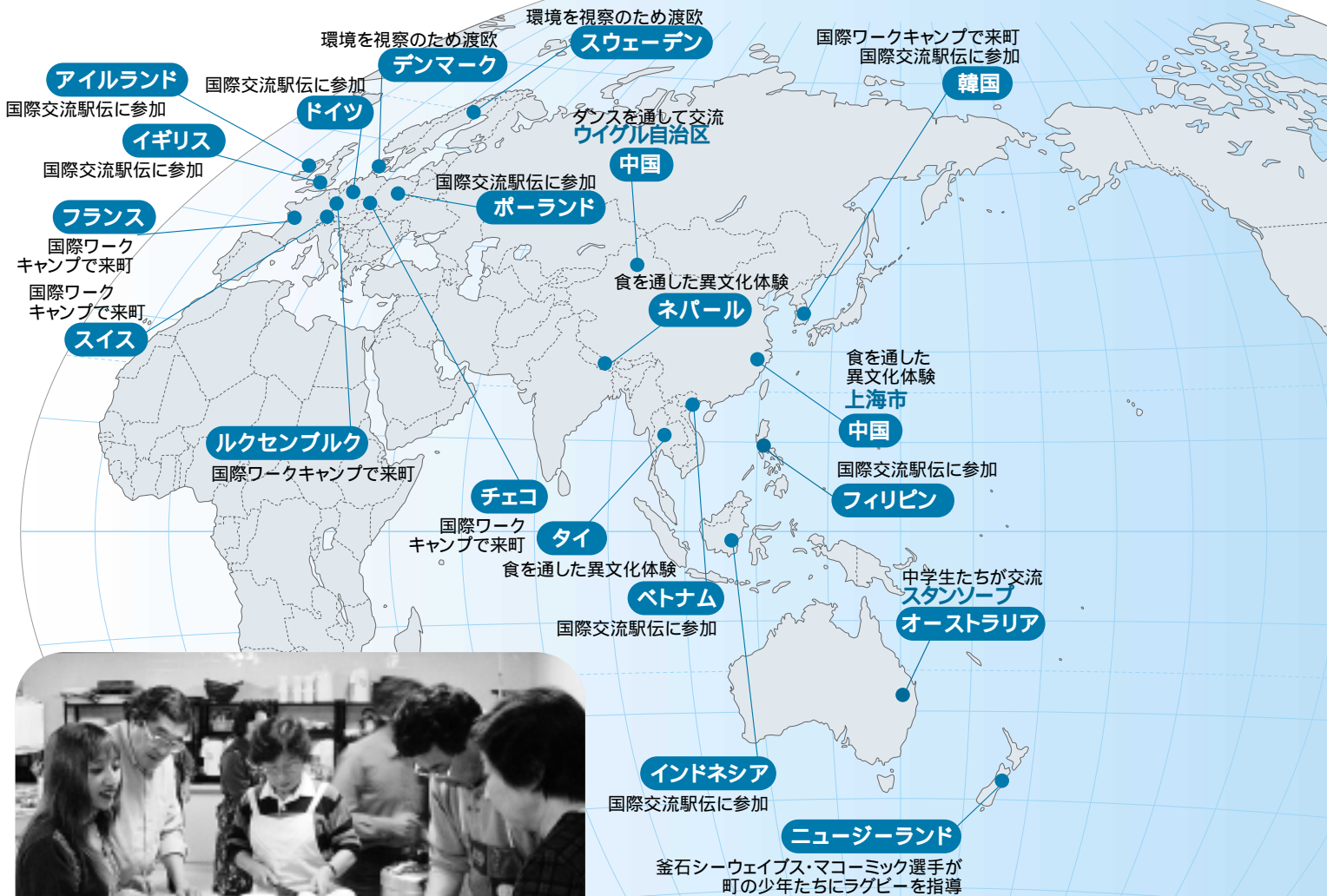
平成13年には、ウィーンシューベルト少年合唱団を受け入れ、14年度には活動を紹介するためのホームページを開設し、機関誌の発行と合わせて情報の提供をしています。

昨年は第1回国際交流駅伝を行い、終了後のパーティーと併せて、言葉や生活習慣の壁を越えたさらに深い交流を実現することが出来ました。

今回の特集では協会の主な活動と今後の取り組みを中心に、町内で行われている国際交流の様子を紹介します。

総会後に中国の 留学生家族とダンス

平成十五年の総会後に、岩手大学に來ている留学生中国ウイグル自治区出身のムフタル家族、イスラハットさんたちと交流全員で民族ダンスを楽しみました。



平成15年度に 交流した国の数々

タイ、中国に続き ネパール料理を囲む夕べ

食を通して異文化体験として、料理教室を開催しています。

一回目は、彦部在住の花籠マリニーさんを講師に迎え、タイ料理を、二回目は水分の馬薇莉さんと日詰の王金燕さんから上海の家庭料理を、そして

三回目は釜石の横田サンギタさんを講師にネパール料理の夕べを開催しました。

料理教室の第一歩は食材探しです。県内に無いものは東京からの取り寄せになります。参加者は初めて見る食材に驚きながらも料理の味付けに感動し、和気あいあいのうちに料理が出来上がりました。そして、食事をしながら国の風習の違いなどを聞き、さらに驚き、楽しいひとときを過ごしました。

協会では町内に住に限らず、近隣市町村の人にも声をかけ、多くの国の食文化を体験し、親交を深めています。皆さんの参加をお待ちしています。

南半球の大陸へ、中学生大使

オーストラリア スタンソープ

国際交流派遣団として、一中、二中、三中から計八人と、引率の先生二人がオーストラリアのスタンソープに行ってきました。九日間という日程で、ホームステイしながら地元のハイスクールに通い、異国の文化、風習の違いの中で、互いに理解を深めようと努力してきました。

スタンソープは今、初秋の大変過ごしやすい季節です。人口一百万人、紫波の十倍ほどの広い大地を持ち、野菜、果樹の特産地であることから生産者同士の交流なども期待されている市です。昨年の二月、町長以下七人が交流の第一歩として公式訪問し、人情味あふれる人たちと交わり、ワイナリーの多さに驚いて帰国しています。今回もその時と同じ現地の通訳、羽田さんにお世話になりました。羽田さんはお母さんが星山出身で、紫波のこともよく分かっているので、生徒たちも安心できたのではないのでしょうか。この体験を学校や地域に持ち帰り、伝え、成果がいろいろな場面で生かされていくことを期待しています。

参加メンバー（敬称略）

派遣生徒 紫波一中 阿部翔太、手塚ひかる、
和野祐香里、高橋育美
紫波二中 中山浩一、幕田加奈子
紫波三中 武田秀太、泉館菜月
引率 紫波一中 及川勝義校長、
境洋子教諭



地球の裏側に行つて

高橋 信夫さん（土館）

平成十四年十月二十八日に、成田空港を出発してロサンゼルス、サンパウロと飛んで南米に入り、そこから南米大陸のまん中辺りにある目的地パラグアイ国の首都、アスンシオン空港に降りたのは、実に三十時間余りを経過した後だった。南半球のこの国では、春が終わりに夏になるうとしていた。

わたしがはるばるこの地までやってきたのは、独立行政法人国際協力機構（JICA）の募集するシニア海外ボランティアに応募したからで、日本からパラグアイに無償供与されたゴミ収集車六十四台の整備、管理の指導のために派遣されたのだ。よく考えてみると、けっこう大変な仕事だし、異国での慣れない生活に気持ち中に不安が黒い塊のように存在していた。

間もなく、その不安が的中していたことを知らされることになる。要請主体である現地の首都圏清掃組合が経済的理由で既に破綻しており、整備工場があっても電気・水道は止められ、かろうじて電話だけが通じるといった状態だった。いずれにしても仕事にはならず、JICA事務所とも相談して車両の保有台数の最も多い、しかも常時稼働しているアスンシオン市役所自動車整備工場へと職場を変更したのである。

健康面では、入国してから二週間下痢が続いた。また車による送迎通勤のため運動不足になってしまい、歩いて二十分の職場へは徒歩にさせてもらった。コミュニケーションの手段である言葉も不安の種だった。公用語であるスペイン語は、出国前一カ月間だけの特訓では大して役に立たず、仕事に必要な名詞程度しか解らなかつた。しかし何とか成るもので、職場の連中とも結構うまく過ごした。

本当にわたしの人生にとって貴重な経験をした一年間でした。



国際ワークキャンプ開催地 サミットに参加して

堀田ゆう子さん(上平沢)

二月十四・十五日の二日間、東京で行われた国際ワークキャンプ開催地サミット



に参加しました。このサミットは、ワークキャンプを運営するNPO法人日本国際ワークキャンプセンター(NICE)側と開催地側が意見を交換し合い、より良いワークキャンプをつくることが目的です。

遠くは熊本から総勢二十人が集まり初日から活発な議論が繰り広げられました。各開催地のこれまでの活動や、今後の目標を発表し合うていくうちに、どこも同じような悩みを抱えていることが分かりました。紫波町でも二〇〇一年から毎年国際ワークキャンプを開催し、町民、特に小学生たちと外国人たちの国際交流の場所をつくってきましたが、幾つか改善点も必要になっています。今回のサミットで話し合いをもてたことにより、解決の糸口が見つかったと思います。

同時に、他のワークキャンプの現状を聞くことにより、新たな課題もたくさん見つかりました。行政機関との連携や地域の人々との関わり方、ボランティアの意義、どういった将来性をもってワークキャンプを続けていくのかなど、難しい問題が多数あります。今後はこれらの問題についてよく検討したいと思います。また、他の開催地とネットワークを結び、国際ワークキャンプやわが町、紫波町を全国へ、広くは世界へ広めていきたいです。本当に充実した二日間でした。

国際交流協会の会員募集

海外の人たちと親交を深めませんか

紫波町国際交流協会の活動に賛同し、会員として共に活動してくれる人を募集しています。意欲のある人なら、どなたでも大歓迎です。

●年会費 個人三千円、団体一万円、高校生以下無料

●申込方法 入会申込書に必要事項記入の上、事務局に提出

申込書は事務局(役場総務課内)にあります。ホームページから申し込むこともできます。

ホームステイ登録家庭募集 ホームステイ受け入れに協力を

協会ホームステイ部会では、留学生や国際交流で町を訪れホームステイを希望する人たちを受け入れていただく家庭を募集しています。登録をしておくことで、家庭の条件、都合がよい場合に受け入れていただくものです。

情報だけではなく直接触れて知る世界

紫波町国際交流協会会長 鷹嘴忠一さん

大河ドラマ『新撰組』の第一回目を見ていましたら、石坂浩一さんが演じる佐久間象山が、二十歳の近藤勇を目の前にしてこんなことを言っていました。

「人は、生まれてから最初の十年は己のことだけ考えればよい、次の十年は家族のこと、二十歳になったら生まれた国(地域)、三十になったら日本のこと、四十になったら世界のこと。ただし、十年後日本のことを考えねばならぬとき、正しいことが判断できるように今から勉強しておくのだ」幕末の激動の時代に生きた指導者たちにはとても良い言葉だったと思います。しかし、今の私たちのおかれている立場はどうでしょうか？ 環境問題、食料エネルギー問題や、戦後処理、北朝鮮拉致被害、イラクへの自衛隊派遣など世界のことを考えて、理解していかなければなりません。マスコミなどで世界の情報はたくさん入ってきますが、自分で直接世界の人々と触れ合い交流することで、少しでも理解を深めることができると思います。

私たちの身近なところにもたくさんの外国人がいます。

国際交流協会は、その人たちとの交流や情報提供の事業に取り組んでいます。また、さらに海外への研修視察の事業も行っていきたいと思っています。



紫波町国際交流協会 今後の主な事業計画

語学学習

ホームステイ登録

在住外国人支援

広報活動

機関誌発行

ホームページの活用

交流機会の企画

国際交流会

海外食文化体験(韓国料理を予定)

海外訪問者交流会

国際親善事業

国際ワークキャンプ受け入れ

オーストラリアスタンソープ市との産業・観光交流の企画

役員

会長	鷹嘴忠一	
副会長	高橋 信	大沢斗志子
理事	菅原 一	佐々木瑞行
	佐藤正春	平井祿郎
	高橋吉見	高田節子
	高橋松雄	三縄美和子
監事	石川喜一	高橋ひとみ

問合せ

紫波町国際交流協会事務局(役場総務課内) ☎672-2111 内線3121

ホームページアドレス

<http://www.shiwanet.com/kokusai/>

ポータル紫波

(<http://www.town.shiwa.iwate.jp/>)

のタウンページ→団体→ホームページからも見られます。

介護保険事業会計

決算とサービス利用状況をお知らせします

介護保険は四十歳以上の人が加入し、日常生活に支援や介護が必要の人がいつまでも安心して暮らすことができるよう、社会全体で支えあう身近な制度です。皆さんの保険料や公費（国、県、町の負担金）などで運営されている介護保険事業特別会計、平成十四年度決算の状況をお知らせします。

問合せ 長寿健康課介護保険室
（保健センター内）
☎672-4522 有線 01-8974

保険給付費の状況

平成14年度

在宅サービス

43,369万円

1人当たり給付額
28,914円
利用者数
14,999人

施設サービス

83,563万円

1人当たり給付額
304,307円
利用者数
2,746人

その他
921万円

介護を必要とする人が増加

六十五歳以上の高齢者の増加に伴い、支援や介護を必要とする人も年々増加傾向にあります。町に申請し、「要介護者」または「要支援者」と認定を受けた人の数は平成十五年三月末には八百六十九人と、六十五歳以上の高齢者全体の一二・二パーセントを占めています。

給付費総額は一二億七八五三万円

平成十四年度の介護保険事業特別会計は歳入一三億八〇六八万円に対し、歳出一三億五五九〇万円で、前年と比較し、歳入、歳出ともに五パーセントほどの伸びとなっています。特に、歳出の大半を占めるのが保険給付費で、一二億七八五三万円と全体の約九四パーセントにも上ります。前年と比較すると一パーセントの増加で、要介護認定者の伸びに比例していることがうかがえます。

利用者数では在宅、給付費では施設

介護サービスは在宅サービスと施設サービスの二つに大きく分類すること

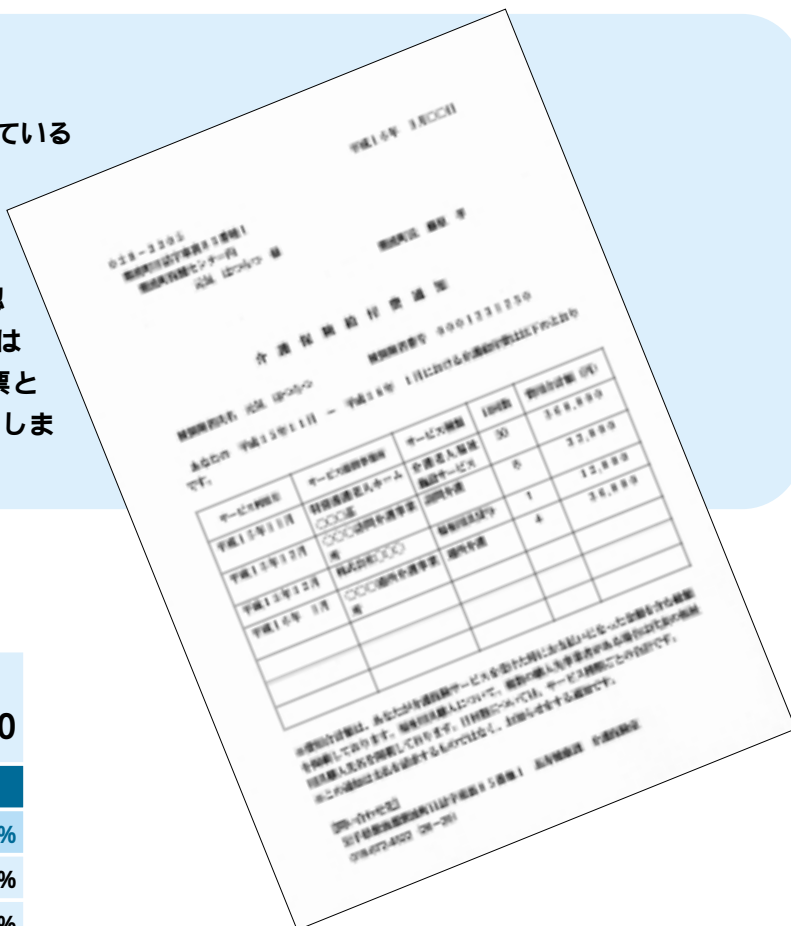


ができます。年間利用者延べ人数は一万八九二三人で、そのうち在宅サービスが一万四九九九人、全体の約八割を占めます。これは施設サービス利用者二七四六人の五倍になります。

一方、一人当たりの給付費で比較すると、施設サービスは三〇万四三〇七円で在宅サービス二万八九一四円の約十倍にあたり、利用者数とは逆転する結果になっています。

介護給付費通知を確認しましょう

町では12月から、介護保険サービスを利用している人に対して介護給付費通知をお送りしています。これはサービス事業者からの請求に基づき、皆さんの介護サービスの利用状況をお知らせするもので、サービス内容や回数などを確認していただく目的で行っているものです。通知は3カ月ごとに発行しますので、サービス利用票と比べ、皆さんが利用した介護サービスを確認しましょう。



県内の 要介護(要支援) 認定の状況

平成 15 年 12 月現在

11 位 ~ 42 位

順位	市町村	認定率
11	陸前高田市	13.27%
12	久慈広域連合	13.35%
13	胆 沢 町	13.40%
14	盛 岡 市	13.56%
15	山 田 町	13.56%
16	釜 石 市	13.64%
17	住 田 町	13.95%
18	矢 巾 町	14.48%
19	岩 泉 町	14.49%
20	水 沢 市	14.52%
21	川 井 村	14.62%
22	新 里 村	14.65%
23	北 上 市	14.71%
24	石 鳥 谷 町	14.78%
25	金ヶ崎町	14.78%
26	盛岡北部行政	14.79%
27	江 刺 市	14.79%
28	室 根 村	14.79%
29	田 老 町	15.22%
30	前 沢 町	15.26%
31	東 和 町	15.31%
32	沢 内 村	15.31%
33	宮 古 市	15.34%
34	花 巻 市	15.40%
35	藤 沢 町	15.58%
36	一関地方広域	15.71%
37	大 迫 町	15.81%
38	湯 田 町	15.86%
39	衣 川 村	16.10%
40	二戸地区広域	16.39%
41	川 崎 村	16.97%
42	宮 守 村	17.09%

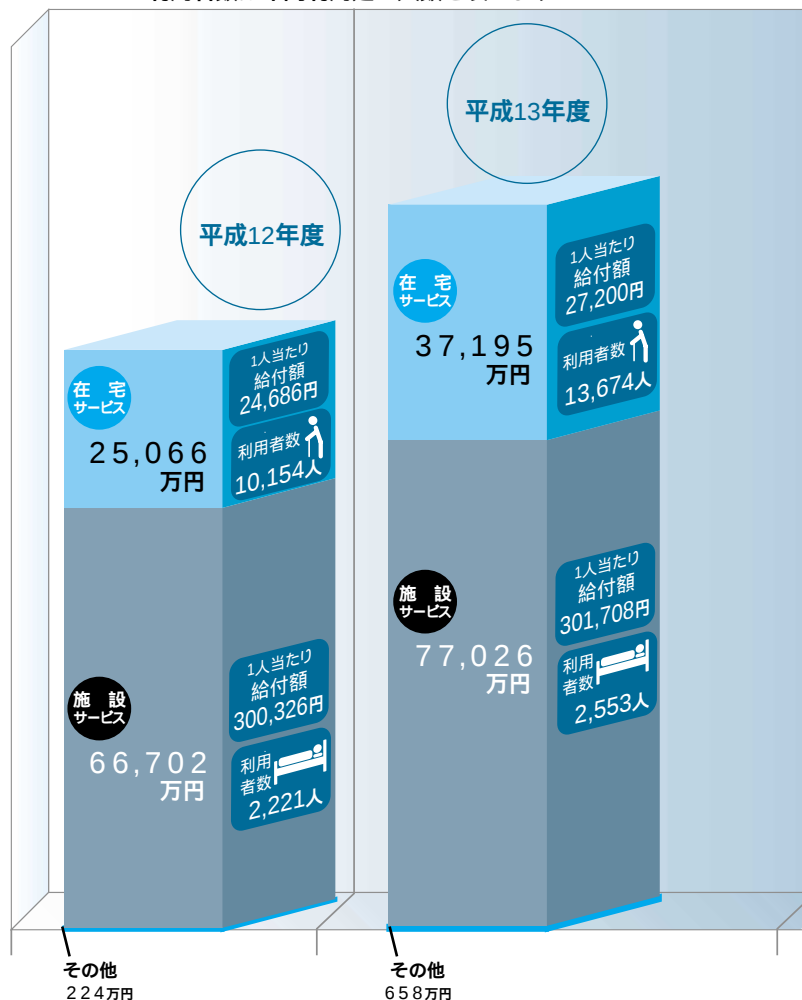
県内市町村の 認定率順ベスト 10

順位	市町村名	認定率
1	紫 波 町	12.23%
2	大 東 町	12.50%
3	田野畑村	12.58%
4	遠 野 市	12.64%
5	東 山 町	12.65%
6	雫 石 町	12.71%
7	滝 沢 村	12.80%
8	大船渡市	12.84%
9	千 厩 町	12.95%
10	大 槌 町	13.05%

認定率とは65歳以上の人のうち「要介護者」か「要支援者」と認定を受けた人の割合です。数字が高ければ高いほど、認定を受けた人の割合が多いことを示します。紫波町は県内で最も低く、健康な高齢者の割合が多いと考えられます。さまざまな方面から取り組んでいる「元気はつらつ事業」などが、徐々に実を結んでいるともいえます。

県の平均は14.29%で、紫波町の認定率は、2.06ポイント上回っています。

グラフの「その他」は高額介護サービス費の支払などで利用者数は年間利用延べ人数を表します



教育振興 だより

再確認しましょう
運動の目的・目標

3月10日

生涯学習課 ☎672-3362

教育振興運動は学校・親子とも・行政・地域の五者が一体となり「学力向上」と「健全育成」、そして個性的な地域の創造と夢と希望をもった子どもを育むことを目指す運動です。この活動を通して学んだものは子どもたちの心にどのように浸透していったのでしょうか。

今年の教育振興運動を集約し、成果や課題を考える実践交流発表会が地区公民館を中心に各地区で行われました。地域の人と関わりながら、行事に参加したり、福祉の心を学んだり、農作業を体験したり、子供会や中高生社会参加活動実践区単位で今年もさまざまな特色ある活動が展開されました。無限の可能性を持つ子どもたちを育むために行う活動の中で、また大人たちも新たな発見や感動を味わっているようです。

日詰地区教育振興運動実践交流発表会から 季節の行事をいっしょに手作りで

日詰九区は児童が六十五人と人数が多いため、子供会活動は二つに分かれて行っています。地域に雇用促進住宅があり、転入が多く、子どもたちも地域の人もお互いの顔が分からないという悩みを抱えていました。今年はこの状況をふまえ、教育振興運動の実践テーマを、地域の人々とのふれあいを深めよう、「地域を知ろう」として季節の行事と食を通して地域の文化にふれ、七夕飾りやひな人形、あんどんづくりなどを地域のお年寄りと一緒に行いました。食に関しては保健推進員の指導や、世代間交流として老人クラブに協力をいただき、多くの人が参加できた活動になりました。九区自治公民館長の赤沢恭子さんは「地区委員をはじめ、お母さんたちが本当に一生懸命だったの、お母さんたちが子どもたちにも伝わたらしく、はじめは集中して話を聞けなかった子どもたちが、徐々に話をする人の目を見て聞くようになっていく成長ぶりを見せたそうです。

活動内容

- ・ 七月 七夕飾りづくりとお楽しみ会（思い出カルタ）
- ・ 八月 薬師神社あんどんづくり
- ・ 九月 芸術祭作品づくり
- ・ 一月 手作りおやつ 日本昔ばなし 昔のあそび
- ・ 二月 ひな祭り ひな人形づくり



日詰9区の子どもたちが、おばあちゃんと仕上げた芸術祭に出品したはり絵

未就学児の 子育て支援も盛んです

にこにこ劇団 2 作目「三匹の子豚」

子育て支援活動を西部地区で開催している「にこにこひろば」(西在家悦子代表)では、人形劇を子どもたちに披露し好評を博しています。

12月18日のひろばで「三匹の子豚」が子どもたちへのクリスマスプレゼントとして公演されました。舞台装置から人形、小道具までスタッフの手作りで、本物のわらが使われるなど、一つ一つに愛情が込められています。この日は、80人以上の親子や祖父母が参加し、スタッフの熱演に喝采していました。

町内には、このほかに子育て支援グループとして「ひよこひろば」「なかよしひろば」の2団体が活躍中で、それぞれパネルシアターや寸劇などのプログラムを企画からすべて行っており、子どもの夢とスタッフの活気を広めています。



ブックスタートで心の健全育成 赤ちゃんにやさしい図書館を

2月15日(日)中央公民館で北海道恵庭市の前図書館長、中島興世さんを招いて開催された読書講演会には36人の町民が参加しました。中島さんはイギリスで始まった「ブックスタート」(赤ちゃんのころから本に親しむこと)を日本に取り入れた人です。

講演「市民がつくる図書館」の抜粋

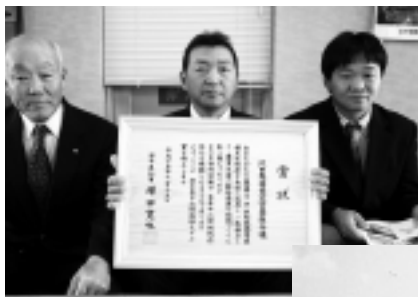
現在、子どもを取り巻くさまざまな問題は日本だけでなく、世界中で最重要課題としてとらえられています。その対策も必要ですが、わたしたちは問題発生そのものを予防するために、子どもの心を育てる読書を推進すること——ブックスタートが必要だと考えました。ブックスタートは1992年にイギリスから始まり世界中に広まった読書運動です。恵庭市では、赤ちゃんの健診時に本とメッセージカードを添えてプレゼントし、その場でボランティアによる読み聞かせもしています。これは、図書館と保健センターと市民ボランティアが共通の問題意識を持つことにより実現したコラボレーションです。

来年度からは、全部の学校図書館に司書を配置する予定になっています。子どもの心を健全に育てるために、読書は大きな効果があるからです。本が嫌いな子どもはいません。読書の機会が少なっただけです。これを拡大するためにも学校図書館の持つ役割は大きいと考えます。

最近増加する幼児虐待も、若い母親ばかりに責任を押しつけるのでは無くなりません。今こそ、状況を考える力がある経験豊富な高齢者の力を借りるべきですし、高齢者は力を貸したいと思っています。皆で協力し合って新しい子育て支援のコミュニケーションを作っていくことが必要なのです。

今、国全体の財政危機にあいますが、問題があるところに変革のチャンスがあります。目的を明らかにし、きちんとした理念と戦略をもって進む必要があります。

教育
振興
だより



平成15年度岩手県中山間地域モデル賞受賞の際には、藤原町長にも報告しました。



ソバの種まきから手作業開始。ソバの種を初めて見たという子どももいました。

片寄地区教育振興運動実践交流発表会から 種から育てたそばの味は格別

沢田実践区は上平沢地区と合同で活動しています。兼業農家の多いこの地区は、農作業の効率化を図るため沢田集落協定営農組合を結成しています。その結果、農地の高度利用、地域活性化、景観づくりなどの活動が高く評価され、平成15年度岩手県中山間地域モデル賞を受賞しました。

子どもたちは、その事業の一つである学童農園での野菜栽培作業と、転作田でのソバ栽培を行いました。ソバの栽培はすべて手作業で、種まき、かまを使うた収穫、足踏み脱穀機による分別、粉挽き、そしてそば打ちです。地域のお年寄りから教わりながら伸ばし棒を使い、麺切り包丁で切っていきます。細いもの太いものさまざまですが、全員最後までがんばりました。一から自分たちでつくったそばは何よりおいしかったことでしょう。

収穫後の脱穀風景。ここまで来れば、後は食べるだけです。



人と人とのつながりを大切に

町の教育振興運動

は、昭和四十年の発
足以来、次代を担う
青少年が心身共に健
全でたくましく育つこ
とを願い歩んできま
した。とりわけ中高生
社会参加活動は、当町の特徴ある活動として二
十年目を迎えます。

そして幾多の成果を上げている反面、活動のマナー化や一
部指導者の負担など運営組織上の問題を指摘する声も聞かれ
ます。しかし、変ばつ著しい社会にあつて、青少
年の置かれている状況に目をむけたとき、人と
人とのつながりの場を
作り、それを軸に中高
生を育てることを要と
してきたことを、より一
層充実・進展させる大
切さを感じます。

平成十二年度まで、中高生社会参加活動
は、紫波町教育振興運動実践交流集会の中
で発表してきましたが、平成十
三年度からは活動の主人公であ
る中学生自身が、各実践区の活
動を互いに発表し聞き合つ交流
を通し、自他を認め、更なる自
覚ある活動へのきっかけとなる事
を願い、中学校での活動実践交流集会として開催していま
す。今年は、紫波二中で行われました。



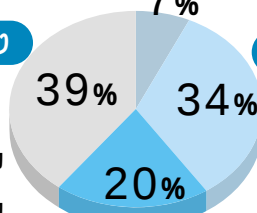
平成15年度 中高生社会参加活動実践内容 11実践区、87活動班が292の活動に取り組みました。

福祉の心を育てる

社会福祉施設を理解するための活動
福祉関係のボランティア活動
高齢者との交流
障害者との交流

仲間づくり

世代の理解の
ための活動
仲間同士の
理解のための活動
子ども会の
育成のための活動
健康安全を
確保する
ための活動
遊びの創造の
ための活動



地域づくり

地域の連携を
深めるための活動
子ども会活動に
対する支援活動
自然を保護、
愛護するための
活動
地域行事の
発展のための活動

郷土理解

自然理解のための活動
郷土文化継承のための活動
郷土文化を理解するための活動
文化創造のための活動

発表

地域型から仲間同士へ 好きだからやる社会参加活動

佐比内地区(第二実践班)

紫波第二中学校 三年 山影秋枝さん

私の地区では、資源回収、奉仕活動、地
域活動を行いました。成果としては、長い間、
交通事故防止活動に協力したことにより、
紫波警察署長から優良交通功労団体として
表彰状をいただきました。防犯講話は、今
大変問題になっている携帯電話による出会
い系サイト犯罪をビデオをみながら、実際
のお話を熱心に聞きました。課題は、毎年班
員が減少しているため、活動回数を減らし

たり内容を変えたりして取り組んでいます
が、まだまだクラブを優先したり、連絡が
ないまま欠席したりしてなかなか人数がそ
ろわず、参加した人が少人数でがんばらな
ければならないことがあることです。もうと
みんなで声をかけあわなければならな
いと思います。

地域活動への参加として、中学生は金山
祭で太鼓演奏をするため、夏休みの間金山
祭に向けて太鼓練習を行います。少ない練
習時間の中で一つ一つ思い出して、曲を作り
あげていくのですが、最初はまとまりがな
く大変でした。本番が近づくにつれリー
ダーの呼びかけに答えてくれたり、意見を
出し合ったりすることが増え、だんだんま
まとまりが出てくるようになりました。

今年、これらの活動から抜け、太鼓を本
気でやりたいという人たちが集まりました。
それは、佐比内だけではとどまらず、他の
地域からも参加者が集まりました。練習は
思ったよりもキツイもので、はじめのうちは
手にまめができた、リズムのコツがとれ
なかったり、一つ一つが大変でした。いよいよ



発表

だれかの役に立つことを実感―農業ボランティア活動

水分地区（南伝法寺上実践班） 紫波第三中学校 三年 鷹鷲 翔さん

今年度、僕たちの班では、社会参加活動として、クリーン作戦への参加、地区民運動会への協力、地域の祭りの行灯作り、祭り当日の屋台の手伝いなど、例年通りの地区行事への参加のほか、昨年同様、班員の家の農業ボランティアに取り組みました。

なぜ農業ボランティアかというと、班員それぞれの家の仕事は、自分の家のとは違う作業で、その辛さややりがいを感じ取れること、そして、自分たちのささやかな力ではあるけれど、だれかの役にたつことができ、うれしさを感じ取れることだったからです。

六月に行なうた作業は、草運びでした。まず、刈り取った草を一輪車に集め、次に高く積んで牛舎の近くまで運ぶのですが、坂道でこぼしてしまったり、バランスをくずして一輪車を転ばせたり、長い距離を歩いたりと大変でした。

次に、夏休み中の八月に行なうた作業は、じゃがいも掘りでした。普段はその家のお母さんが一人で何時間もかけてやる作業を、僕たち四人とお母さんがた四人でやると、すぐに終わりました。芋掘りは、八人でやうたせいか、少し疲れたぐらいですみました。これらを一人でやるとすると、非常に時間がかかり疲れます。

今までの活動を通して、次のようなことを学びました。まず、みんな一緒に作業をすると、とても早く終わり、少量の労働力で済み、楽しくできることです。

また、農業と言っても、稲作、野菜を作る

仕事、牛を育てる仕事など種類があり、それぞれの仕事にもたくさんの作業があつて、その家々ががんばっていることが分かったことです。

そして、農業の仕事をしている人たちは年々高齢化していて、草運びの家の作業はいつもは主におじいさんが一人で行なっています。一人でやると、きつい作業ですが、人数で取り組めば早いし、楽だと感じました。いろいろな施設を訪問したり、清掃したりはしないけれど、自分たちの家庭の仕事であり、地域全体の共通の仕事とも言える農業に関心をもち、体験してみるといいのは、地域という社会に参加していることになるのではないかと僕たちは思っています。

昨年度から今年度の南伝法寺上実践班での社会参加活動全体の感想や反省は、共同作業をお互いに協力し合っているいろいろな行なうたこと、同じ作業が昨年より上手にできるようになつたこと、農業や祭りを通して地域の方々とおふれあうことができたこと、友達と同じ農業体験をしたことで共通の思い出が増えたこと、クリーン作戦のとき、空きカンや吸殻を大量に捨てた人がいるのが分かり、マナーの悪さがわかつたことです。また、各行事ともけががなく行えて良かったです。

来年は、三年生三名の班になります。また、楽しんで喜ばれるような活動を考え、実践していつてくれるものと期待します。これで発表を終わります。

よ新曲の練習に入り、覚えるまでは自分のことではいいでした。全体で合わせるにつれて、今まで自分たちのペースでやっていた分、みんなと合わせるといことが必要となりました。やりはじめた時は指示された事を直すだけでしたが、しだいに悪い所を指摘し合ったり、その悪い所をどうするかなど、自分たちで解決していくようになりました。その結果、どの舞台でも気持ちよく演奏できたし、また、そのたびに成長していくのを実感しました。それだけではなく、金山祭へ向けての練習の時、まとめられたのはもちろん「まわりのメンバーの協力があつたから」ですが、「この活動でやつてきた事を生かしたから」というのもあつたと思います。

て行きたいと思えます。そのために、これまでも以上がんばっていききたいと思えます。はじめ「これらの活動から抜け」と言いましたが、このような活動も社会参加活動の一つの形だと思えます。好きでやっているこの活動を、これからもたくさんの人たちに知ってほしいです。



皆様のご理解とご協力を

小中学校で「分煙」を実施します

町内小中学校では、児童・生徒の健康と安全を守るため、4月から建物内の分煙化に取り組みます。学校は児童・生徒が一日の大半を過ごす施設であり、受動喫煙の人体に与える影響が子どもは大人より大きいと、発達途上にある児童・生徒の健康を守る観点から、受動喫煙の防止を徹底する必要があります。

平成15年5月の健康増進法の改正により、学校、官公庁などの施設管理者は受動喫煙防止の措置をとるべき義務が明記されました。

将来的な全面禁煙に向け、町内全校で建物内の指定された場所以外での喫煙を禁じる「分煙」とし、教師はもちろん来校者にもご協力をいただくことになります。学校での取り組みと並行して、児童、生徒をたばこの害から守るため、喫煙防止教育の一層の推進を図ってまいります。今後とも家庭、地域の皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

受動喫煙 たばこを吸わない人が、いろいろな場所で自分の意志とは関係なくたばこの煙を吸うことをいいます。

問合せ 総務学事課 ☎672-3362

教育
振興
だより



認定ステッカー

このステッカーを貼っている店が、環境に優しい取り組みをしています。

環境に優しいお店応援します 「エコ・ショップしわ」 認定制度

町民、事業者、行政が一体となり、循環型のまちづくりを実現していくための施策の一つとして、2月から「エコ・ショップしわ認定制度」を導入しました。

これは、ごみ減量化やリサイクル活動などに、積極的に取り組んでいる町内の小売店舗を認定することで、環境への配慮がさらに推進されるよう応援する制度です。

認定要件 19 項目のうち、4 項目以上に取り組んでいることが条件となります。

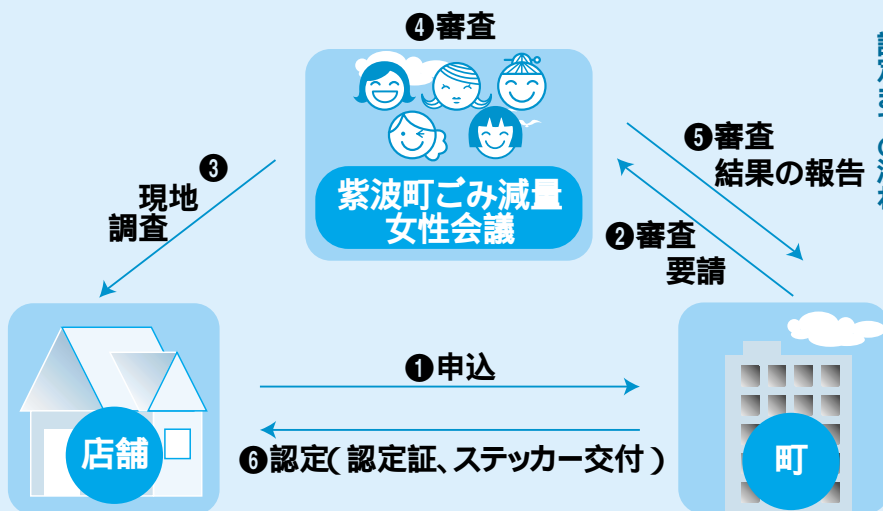
紫波町ごみ減量女性会議が審査

「エコ・ショップしわ」の認定審査は、紫波町ごみ減量女性会議が行います。

認定審査を申し込んだ店に、紫波町ごみ減量女性会議が伺い、申請内容とおりの取り組みがなされているか、生活者の立場で審査します。その結果を踏まえて町が認定します。

町では、認定を受けた店に認定証と認定ステッカーを交付し、各店の取り組みを応援します。

認定までの流れ



認定条件

包装紙の簡素化または無包装化の呼びかけなどの実施

食品トレイの削減

レジ袋削減のための買物袋（マイバッグ）の利用促進

量り売りの実施

広告チラシなどへの再生紙利用

取扱商品の修理などの実施

白色トレイの店頭回収の実施

空き缶の店頭回収の実施

空きびんの店頭回収の実施

段ボール、古紙または紙製容器の店頭回収の実施

の実施

ペットボトルの店頭回収の実施

環境に配慮した商品の販売

有機農産物または減農薬農産物の販売

太陽光または風力発電によるクリーンエネルギーの活用

ルギーの活用

節電などによる省エネルギーへの取り組み

燃料使用量の削減

環境に関する社員研修の実施

商品の品質に関する適正な表示

その他ごみ減量化、リサイクル活動など環境に配慮した取り組みの実施

まち美化を進める 「紫波まちピカ応援プログラム」 がスタート



皆さんは「アダプト・プログラム」をご存じですか？ これはハイウェイのごみ問題で困っていたテキサス州交通局が導入した「アダプト・ア・ハイウェイ・プログラム」が始まりとなった新しい環境美化プログラムです。そのキーワードは「養子縁組」。一体、環境と養子がどう関係するのでしょうか。

住民が公共スペース(養子)の里親になる

町では、住民、事業者との協働により空き缶やたばこの吸殻などポイ捨てのない快適なまちづくりを進めるため、町内の道路・公園などを対象としてアダプト・プログラムを導入し、「紫波まちピカ応援プログラム」の名称で三月から実施します。

このプログラムは、アメリカで一九八五年に導入された環境美化プログラムです。アダプト(ADOP T)は「養子縁組をする」という意味で住民が公共スペース(養子)の里親となり愛情をもって清掃・美化することから命名されたものです。日本に導入されたのは一九九八年で現在百十以上の自治体を取り組んでいます。

「紫波まちピカ応援プログラム」の内容

活動区域 町が管理している道路・公園・その他公共用地が対象となります。地域へ管理委託しているものは除きます。

対象団体 住民グループ、企業、学校などの団体が対象となります。

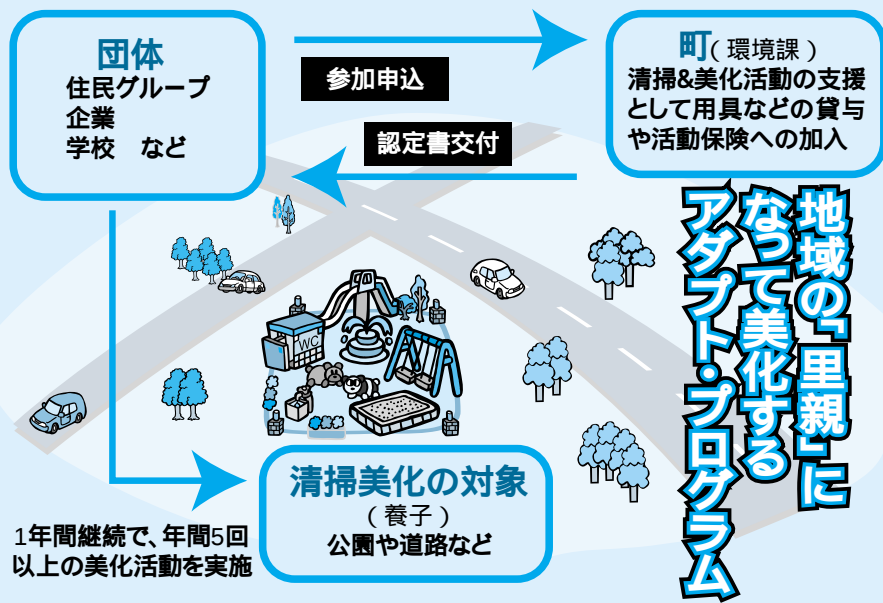
活動内容 ごみの清掃、除草、緑化活動などを年五回以上、一年以上継続して行うこととなります。

町の支援 ごみ袋、ほうきなどの清掃用具の貸与と活動保険への加入を行います。

参加申し込みから活動までの流れ 団体などから町に参加申し込みをしていただき、町では申請地区の確認後、団体と覚書を交わします。その後、団体は清掃活動などを行うこととなります。

プログラムの導入は県内初

プログラムへの参加団体は、町とお互いの役割分担や活動内容などを協議して覚書を交わし、定期的・継続的にボランティアにより美化・清掃活動を行うこととなります。まち美化から、地域の見直し、地域への愛着、まちづくりがこのプログラムのねらいです。



皆さんの参加をお待ちしています

「エコ・ショップしわ」と「紫波まちピカ応援プログラム」の問合せ
環境課循環政策室 ☎672-2111 内線 5521 FAX 671-1654



婦人消防協力隊連合会と交付された
軽可搬小型動力ポンプ（上写真）/
新たに第9分団に交付された車両
（左上）と旧車両（左下）

まちの 話 題

活躍する消防団に新たな車両などが配備

彦部地区の 消防ポンプ車を更新

三月一日、消防団第九分団
第二部（彦部地区）の消防ポ
ンプ車を更新し、車両の交付
式が行われました。

交付式は、役場駐車場で行
われ、藤原町長より菊池分団
長に鍵が手渡され、住民の生
命と財産を守っていただきた
いとの訓辞がありました。

町では、消防車両三十四台
を各分団に配置しています。
今回更新の車両購入費用は千
六百六十九万五千円です。



なお、以前
の車両（上写
真）は、昭和五
十四年から二
十四年十カ月
間使用されま
したが、この
更新により競
売される予定
です。

軽可搬動力ポンプで 女性も容易に操作

二月十四日、紫波町婦人消
防協力隊連合会（瀬川蛟子会
長）に対して、軽可搬小型動

力ポンプの交付式が行われま
した。

このポンプと組立式水槽、
投光機は、協力隊の婦人の操
法訓練用に財団法人日本消防
協会（財団法人自治総合セン
ター助成）の女性消防隊によ
る安全で災害に強い地域づく
り推進事業の補助をいただき
町で購入し、婦人消防協力隊
連合会に交付を行いました。

これは、女性消防隊の育成強
化を図るとともに、安全で災
害に強い地域づくりを推進す
ることを目的に実施されてい
ます。

日常に火を取り扱う機会の
多い女性の立場での自主防災
活動や住民に対する防火思
想の普及に対する利用が今
後期待されます。

この連合会は、自主防災組
織として結成されている各地
区の婦人消防協力隊（十二地
区）の連合組織として昭和四
十五年に結成され、現在約七
百人の役員で消防団員と共に
火災予防活動、防火思想の啓
発活動や初期消火講習会、救
急救命講習会を行っておりま
す。

安全で安心なまちづくりのため努力している
紫波町消防団幹部の皆さんです。

紫波町消防団

敬称略

団長、副団長、本
部長は以前紹介して
いますので、今回分団
長以上を紹介します。



ラッパ長
高橋 貞治



副本部長
滝浦 重美



副本部長
高橋 正敏



副本部長
女鹿 隆一



第6分団長
熊谷 正志



第5分団長
浦田 博夫



第4分団長
高橋 康一



第3分団長
阿部 秀夫



第2分団長
戸塚 秀一



第1分団長
佐藤 弘志



第12分団長
佐々木 好克



第11分団長
吉田 茂美



第10分団長
梅津 孝二



第9分団長
菊池 勝司



第8分団長
岩館 佐吉



第7分団長
藤尾 芳清

100日間！無事故無違反 98.8%達成！

2/23

サンビレッジ紫波を会場に、交通安全コンクール「チャレンジ100しわ」の表彰式が行われ、達成したチームには、賞状とSDカード、記念品が手渡されました。

五年目となる今年は、過去最高の百三十七チームの参加があり、昨年九月二十九日から今年の一月六日まで競合しました。

このコンクールは、五人がチームとなり、全員が百日間無事故無違反の達成を目指し

て交通安全に取り組むというものです。職場の仲間、公民館老人クラブなど様々な団体が一丸となつて、頑張った結果、昨年のほぼ二倍の参加がありながら、達成率は九八・八パーセントと県内で一番の好成績でした。

この結果から、より多くの人に参加していただき、交通安全意識を高めて、紫波町から交通事故による犠牲者を無くせるようにしたいものです。

「チャレンジ100しわ」は



平成十六年度も実施予定です。参加したい人や詳しい内容が知りたい人は、消防安全室までお問い合わせください。

紫波町農業振興大会・紫波町農業表彰式



環境共生・創造のまちづくりを目指し、さまざまな施策や民間の活動に多くの人の理解を深めるため「食と農の地元学フォーラム」がJAパーフルパレスで開催されました。はじめに農業振興の先頭に立ち努力してきた功績をたたえる紫波町農業賞の表彰式があり、個人六人と六つの団体が表彰されました。昼にはすべて町内産の素材を使った地産池消費丹の試食が行われました。

午後からは、陸前高田市でまちづくりのトップとして活躍している(株)八木澤商店の河野和義さんの、食の大切さ・食へのこだわりを痛感させられる講演がありました。ポリシーである地元・本物・やさしい・プラス指向」によるしゅづくり、そしてまちづくりの取り組みや、昨年放送されたTV番組「どうちの料理

シヨ」で紹介された自根のキュウリづくりの復活など、参加者に感動を与えるものでした。

第九回紫波町農業賞受賞者

営農部門 小屋敷第一生産組合

弥勒地忠義さん(宮手)

梅澤安時さん(赤沢)

むらづくり活動部門 古館産直組合

志和握里センター

功労部門 杉浦久一さん(片寄)

阿部義郎さん(土館)

横沢忠美さん(栃内)

女性農業部門 古館農産加工組合

細川栄子さん(片寄)

特別賞 紫波ふる里センター

佐比内産地形成促進施設組合

町の農業者の最高顕彰

2/15

家族の元気のもと あったか健康料理

2/27

テレビでおなじみの梅津末子さんを講師に迎え、三十人の女性が健康献立に挑戦しました。元気はつらつ事業の一環として行われたもので、タンパク質、ミネラル、食物繊維など毎日必ず摂りたいものが盛り込まれ、盛りつけ、彩りにも一工夫したごちそうがで上がりました。人気の先生とあつて申込が殺到した講座でしたが、参加者は離乳食の子どもがいる若いお母さんから孫のいる年代まで五人がグループとなり、協力しながら四種類のおかずを一時間半ほどで仕上げていました。メニューのうち特に人気だったのが、大豆をすりつぶしてみそ汁にした、呉汁(こじる)です。大豆が体に良いことは分かっていますが、消化の点で小さな子どもやお年寄りには食べにくい場合もあります。この調理ではすり鉢を使うことで体にすつと入っていく感じがします。さうそく家庭で作ってみたいと口々に話していました。



水道料金表の表示方式が変わります

消費税法の改正により、4月1日から、上・下水道使用料の料金表が税込表示に変更となります。

現在の料金表の金額は、税抜き表示となっておりますが、4月からは、税込み表示になります。(実際にお支払いいただく額は従来と変わりありません)

詳しくは、水道メーター検針時に配付の料金表(「水道使用水量等のお知らせ」の裏面に掲載)をご覧ください。

・問合せ 水道事業所営業サービス室 ☎672-2111 内線5421・5422

東北電力から引越の手続きはお早めに

引越の際は、5日前までに東北電力へお電話ください。確認する点は次のとおりです。

・お客さま番号(「電気ご使用量のお知らせ」をご覧ください)

・住所 ●名前 ●引越日

・引越先 ●料金の支払い方法

・電話受付時間 午前9時～午後4時

時

・連絡先 東北電力盛岡営業所お客さまセンター ☎653-2111

紫波ネット3月号お知らせ版に掲載した県立高校入学選抜試験の日程に誤りがありました。正しくは「3月9日、10日」です。おわびして訂正します。



町の仕事に参加してみませんか

町の仕事のお手伝いをしていただく、行政嘱託員(非常勤)の登録を募集します。

・応募資格 昭和49年4月2日以降に生まれ、高校以上を卒業または平成16年3月31日までに卒業見込みで、紫波町に居住しているか平成16年4月1日以降居住する予定がある人です。

・任期 1年以内

・申込・採用 申込用紙ほか必要書類を3月22日(月)までに総務課に提出。後日作文試験および個別面接のうえ、選考して採用予定名簿に登録。登録後すぐに採用されるものではありません。申込用紙は総務課にあります。

・勤務条件 勤務時間は週35時間以内。報酬は、経験などにより決定します。

・申込・問合せ 総務課職員管財室 ☎672-6867(直通) 有線01-2825

ホームヘルパー2級課程養成講座を開催

県高齢者福祉生活協同組合では、ホームヘルパー養成講座2級課程を開催します。県内在住ならどなたでも受講することができます。

・募集定員 40人(先着順、定員になり次第締切)

・受講費用 65,000円

・期間 4月20日(火)～6月30日(水)

・場所 県高齢協 厨川(盛岡市厨川2-4-101)ほか

・申込・問合せ 県高齢者福祉生活協同組合 ☎653-5830

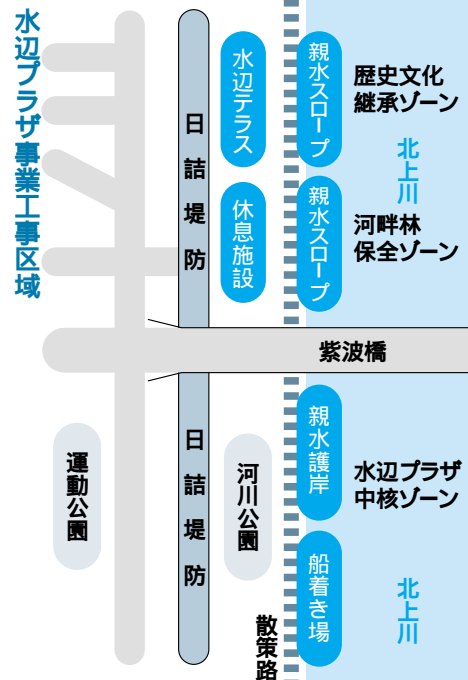
国土交通省水辺プラザ事業についてお知らせ

現在、日詰地区の北上川、紫波橋下流で国土交通省の「水辺プラザ」事業による環境整備の工事が行われています。

この事業は右岸河川敷に、人々へ憩いといやしを提供し、多様な利用に適える快適な水辺空間を地域と共同し造るものです。散策路、船付場、親水護岸を整備し、水辺と親しむ空間、市街地のオアシスとして利用できます。

町では日詰地区を中心とした住民の皆さんに委員を委嘱して、紫波地区水辺プラザ懇話会を立ち上げ、意見、提案をいただき国土交通省と協議を進めながら事業の推進を図っています。城山公園、運動公園、水辺プラザを緑のネットワークとして、町民の健康づくり、安らぎの場として多くの皆さんに利用される施設にしたいと思います。

・問合せ 地域整備課 ☎672-6876



ゴミ袋に手さげタイプが登場

皆さんが日常利用している町指定ゴミ袋に、口が閉めやすく持運びに便利な手さげタイプが登場しました。お求めは町内の商店で!

ゴミ集積所は、みんなでマナーを守って使いましょう

日本の酒造りを支える南部杜氏の技 親しまれ、飲み続けられる酒へのこだわり

稲刈りも終わり、冷たい北風が吹きはじめの十月。日本一の酒造り職人たちが、北海道から四国まで各地の造り酒屋へ赴く。

延宝六年（一六七八年）、近江商人村井権兵衛が大阪から杜氏を招き、旧志和村で酒造りを始めた。それまで「酒」のままでろ過しない、いわゆる「どぶろく」だけだった酒造りに、池田流の「すみ酒」の醸造技術を持ち込んだのである。その後、近隣の農家が副業として、三石程度の酒造りを請け負う「引酒屋」にその技術が広まり、代々受け継がれた。千把扱きの登場によって脱穀作業が軽減されると、農家は冬の作業から解放され、造り酒屋に出稼ぎを始めた。それが南部杜氏の源である。

南部杜氏は、越後、丹波と並び日本三大杜氏と称されているが、現在では日本最大の酒造り技能集団である。今日まで伝統と熟練の技の伝承がなされているのは、自然とともに生き、その恩恵に浴しながら米作り・酒造りを一貫して追求し続け、時代に流されることなく、逆に時代を築き上げていく強い精神、意志とが深く融合され続けているからである。

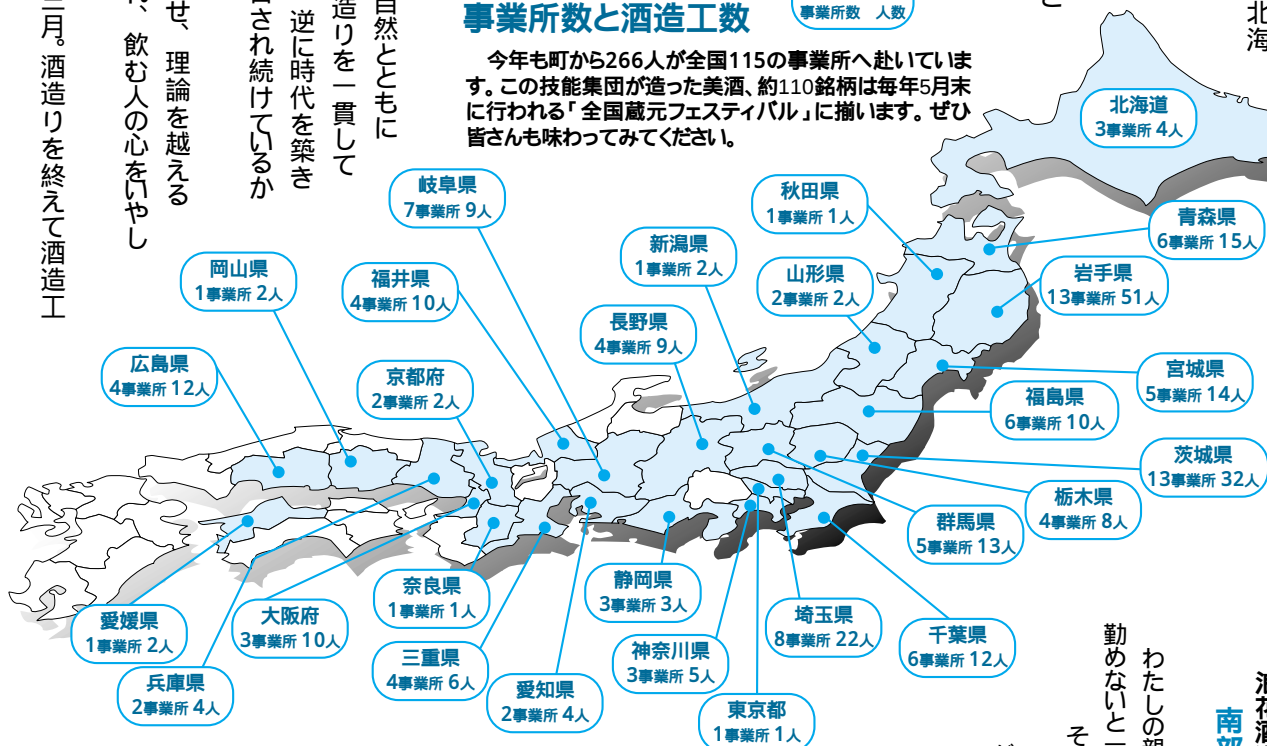
酒造りは長年の経験から五感を利かせ、理論を越える技術がそこにあるからこそ美酒は生まれ、飲む人の心をやしとくれる。

梅の花が咲き、春の足音が聞こえる三月。酒造りを終えて酒造工たちは家族が待つ家へ帰ってくる。

出稼ぎ先都道府県別 事業所数と酒造工数

今年も町から266人が全国115の事業所へ赴いています。この技能集団が造った美酒、約110銘柄は毎年5月末に行われる「全国蔵元フェスティバル」に揃います。ぜひ皆さんも味わってみてください。

都道府県名
事業所数 人数



インタビュー 県外で働く杜氏

浪花酒造（大阪府阪南市）酒造り歴四十五年
南部杜氏 佐藤勝郎さん（片寄）

わたしの親もその親も杜氏で、土地柄もあり昔は酒屋に勤めないと一人前とは認められなかったから杜氏になった。そして自分の思うところの酒を造りたかった。

香りが華やかで味のある酒は一口目はおいしいが、杯を重ねるごとに鼻についたりする。いまどきの人は、一度にたくさん飲まないのが、販売戦略としてはそれでいいかもしれないが、本当にいい酒は、飲み続けられるもので、杯について手の温もりの中、底のほうから良い香りがしてくるものだ。

今年は、タンク八十本もの酒を造っているが、自分で納得できる酒は、その中でも二、三本。だからこそ、毎年、よりうまい酒を造ろうと仲間と共に挑戦できる。





あなたの作品をお待ちしています

応募先 〒028-3390 紫波町役場
環境課「紫波フオト歳時記」係
☎672-2111 有線 01-8972

残したい日々の生活・風景などを、あなたの秘蔵・自慢の写真で紹介



役場の敷地南側に旧紫波郡役所があることをご存知ですか。明治三十年の郡制施行に伴い明治三十一年、紫波郡（日詰町）に設置され大正十五年までの二十九年間郡役所として使用されました。

歴史のかなたから
——旧紫波郡役所
環境課から

所有することになりました。郡制時代の紫波の歴史を語る唯一の遺構です。現在は、役場の会議室、選挙時の不在者投票所に使用され、現役の建物として利用されています。昭和五十年には町指定文化財となっています。

郡役所の北隣りには樹齢百年の桜の木が寄り添い、毎春、互いの長寿を祝うかのように色あざやかな桜花が咲き誇ります。

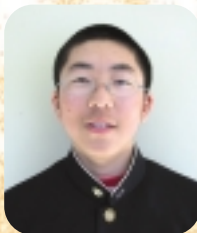
役場にお越しの際、郡役所をのぞくになり明治への思いにひたってみてはいかがでしょうか。



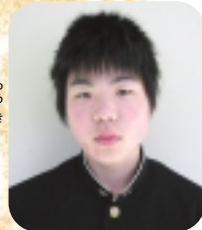
作山 彩さん（1年）
CDラック
おしゃれたデザインを心がけて仕上げました。最近ではタブレットでイラストを描くことに夢中になっています。



高橋 祐貴さん（1年）
フリーボックス
ガスバーナーで焼き色を付けたときに炭にしないうう気をつかいました。友達とトリビアの泉の話題で盛り上がっています。



内村 優貴さん（1年）
ビデオセラック
木が堅くて木ネジを打ちにくかったです。バスケットでレギュラー目指して練習に励んでいます。



アール・コージュ
中高生の芸術

紫波二中
【作品名】 木工製作
（杉板材の加工）